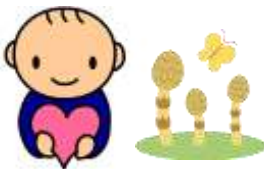


プラス1



岐阜県立東濃特別支援学校
地域支援センター通信
No. 37 (H30. 3月号)

～いつもの支援を一工夫～

今年も卒業、修了の時期がやってきました。1年の成長とこれからの目標に向かって進む時期です。新しい環境でも、一人一人の最大の力を発揮できるよう、引き継ぎをしっかりとしたいです。



アイデア教材大賞!

本校では、職員が日頃、児童生徒への支援のために創意工夫して制作した教材・教具を一堂に集めて、展示し交流するアイデア教材大賞を行っています。支援の共有や楽しい支援方法への自己研修の場とし全職員で投票も行います。そんなアイデア教材の中から、一つ紹介したいと思います。



シャツをしまおう☆

視覚的な情報を得られやすい子、特に身だしなみのよい姿を自分で気付いてほしい子への教材です。着替えのときに見やすい位置に掲示して、シャツがしまえたら花丸をつけます。

言葉で伝えるよりも、イラストでよい姿を示すことで、自分で見て確認し、シャツをしまう習慣がついてきました。できたら花丸をつけることで、視覚的に達成感や喜びも感じられる教材です。

トピックス

進路先の決定に向けて

今月号のトピックスは卒業の季節ということで、進路についてです。「進路」というと、まだまだ先のことと思いがちです。確かに、進路決定は中学校3年生あるいは高等学校3年生で行いますが、その決定に至るまでには、早期からの継続した取組が必要になってきます。

将来の進路先は、家庭や学校生活の中で子ども達が培ってきた力を発揮する社会生活の場であり、まさに「生きがいの場」と言えます。子ども達が自分の希望する進路につながるように、本人・家庭・学校・関係諸機関が力を合せることが必要です。そうすることにより、「働く」「楽しむ」「暮らす」ことができる社会生活の場を探したり、作り出したりすることが可能になってきます。

以下の1～4は、本校高等部の学校説明会で保護者の皆様をお願いしていることです。よろしければ、懇談等の参考にしてください。

1 早期から継続した取組を

- (1) 自分のことは、できるだけ自分でできるようにしましょう。
- (2) 今できることが、どんな場面でも確実にできるようにしましょう。
- (3) 挨拶や返事ができるようにしましょう。
- (4) 年齢相応の接し方に対応できるようにしましょう。
- (5) 社会で通用する生活習慣を身に付けるようにしましょう。
- (6) 家庭の一員として役割を果たせるようにしましょう。
- (7) 体を動かす機会をできるだけ多くもち、体力の向上に努めましょう。



2 一つ一つの実際の体験を通して

近所のスーパーに出かけて自分の好きな菓子を買うこと一つをとっても、「人と話す（挨拶をする）こと」「代金を支払うこと」等、将来の社会生活の中で経験していくことが複数含まれています。それと同じように、「電車・バスに乗ること」「公共の場所へ出かけること」等、子どもたちが実際に経験していくことで身に付けていくことがたくさんあります。どんどん社会の中へ出て行き、体験を積むことが大切です。また、地域に出て地域の中の人たちとかかわりをもつことが、将来の進路につながっていくことにもなります。



3 学校や関係機関との連携を大切に

家庭での様子、進路についての相談等、家庭と学校の連携を深めていきましょう。進路は学校だけが決めるものでもなく、また保護者のみなさまだけに決めていただくものでもありません。本人にとって、一番良いと思われる進路決定に向け、ともに進んでいきましょう。

4 家族が一つとなって

家族の一員として役割を与えるとともに、簡単な作業や仕事に親子で一緒に取り組む経験も必要になります。また一緒に仕事をする中で、働く喜びをもつことができ、勤労意欲にもつながっていきます。是非、家族全員が協力し、お子さんの将来について相談にのったり、話し合ったりしてください。



今年度も地域支援センターへのご理解とご協力をありがとうございました。来年度はさらに地域の特別支援教育に貢献できるよう、努力してまいります。引き続き、地域支援センターをよろしく申し上げます。

また、通信「プラス1」をはじめ、研修会や訪問支援、来校相談に関するご意見、ご要望もお気軽にお寄せください。アンケートを同時にお送りしました。協力をお願いします。